

体験談・官能小説 R-18

—その夜、板がざわめいた—

妻を親友に「一度だけ」って言った俺の末路 NTR

実話投稿板より

TOR-NET

R-18

©2026 TOR-NET

本作はフィクションです。実在の人物・団体とは一切関係ありません。

34歳の会社員だ。妻の美沙と都内のマンションに住んでる。もう半年以上、夫婦の間は完全に冷めてた。帰宅して飯食って、風呂入って、布団で横になってスマホいじって、そのまま寝る。美沙も元々控えめな性格だから、俺の方から何か積極的にするわけでもなくて、ただ淡々と毎日が過ぎてくだけだった。セックスなんて月一あるかないかで、してもただ体を重ねるだけで、息も上がらないし、終わったあとお互い何も言わない。倦怠ってのは本当に恐ろしいよな。

ある夜、珍しく家で酒をかなり飲んだ。美沙も少しだけ一緒に飲んでたんだけど、話題が昔からの親友・貴島の話になった。貴島は36歳の独身で、押しが強く女にもモテるタイプ。俺がふと口走った。「美沙のこと、俺がいる前で一度だけ触ってみないか」って。頭ん中が興奮で真っ白になって、言葉が勝手に出たんだ。美沙は最初、何も言わなかった。ただじっと俺の目を見て、唇を震わせてるだけ。息が少し荒くなって、頬が赤らんでるのがわかった。俺は慌てて「一度だけだぞ」

「貴島も独身だし、軽い感じで」みたいなこと並べたてて、結局その場で押し通した。美沙はただ小さく頷いただけだったよ。唇が震えてて、声は出なかった。

後で貴島にLINE送ったら、意外と「マジかよ」って乗り気で返してきた。梅雨明け前のじめじめした夜に、家で酒飲むって約束して、当日を迎えることになった。俺はあの夜、ドア一枚隔てた廊下に立ってた。リビングの明かりが漏れて、貴島の低い声と、美沙の短い息遣いが聞こえてくる。グラスを置く音、ソファが軋む音、そして美沙が小さく漏らした吐息……。最初はただの「一度だけ」のつもりだったのに、もう止め方がわからなくなってる。興奮と後悔が同時に来て、廊下で息を殺しながら聞いている自分が最低だと思うけど、指が震えて止まらないんだよな。続き、書くか迷ってるけど…



002 名無しさん 都内のマンションで半年以上淡々としてる生活、わかるわ…美沙さんも控えめなら尚更だよな

003 名無しさん >>1 半年以上冷めてるのに美沙に声かけもしねえクセに、急に友人に触れて押し通すとか頭おかしいだろお前

004 名無しさん >>名無しさん 法律とか言ってるけど、最初に酒飲んで口走った時点で本人が一番冷静じゃねえだろ、矛盾してんじゃねえか

005 名無しさん マンションの廊下で息殺して聞いている時点で

006 名無しさん 妻の同意があっても第三者との性行為は後でトラブルになる可能性があるから、まずは二人でよく話し合った方がいい。都内の生活で弁護士相談も現実的だ

007 名無しさん 美沙の吐息聞こえてきて興奮してるならそのまま美沙の尻でも触ってやれよ、会社員のくせに奥さん貸し出すだけとか中途半端すぎんだろ

008 名無しさん >>3 梅雨の話してんのに夜の住人とか関係ねえだろ、なんか最近の天気どうよ

009 名無しさん 廊下で聞いている時点で完全にNTR趣味開花してるじゃん、奥さん貸し出してるのに自分で触れねえとか逆に草

010 投稿者 >>9 触りたくても足が動かねえんだよ、興奮しすぎて

011 名無しさん 美沙さん最初頷いただけってマジで？それで本当にOKだったのか今でも気にならねえのかよ

012 名無しさん 梅雨明け前の夜って具体的にいつだよ、最近のじめじめ具合で思い浮かぶわ

013 投稿者 >>3 冷静じゃなかったのは認める、でももうこうなってる

014 名無しさん 続き書けよ、貴島が何したかまで書いてくれないと消化不良だわ

実況台本

……えっ……

今、なんて……？

「一度だけなら……貴島さんと……」って……

夫が、そんなこと、急に……酒の匂い混じりに、笑いながら言った。

……本気？ 今のは……本気で言ってるの……？

それとも、ただの酔った冗談……？

でも、目が……少し真面目だったような……気がして……

あ……

自分の吐息が、聞こえた。

今、私が漏らした息が、リビングの空気に溶けていくのが、はっきりわかった。

梅雨明け前の、じめじめした夜。

窓の外はまだ雨の匂いが残ってるのに、室内は妙に蒸す。

夫の声が、耳の奥に残ってる。

「一度だけなら、いいと思う」

……そんな風に、簡単に言える？

私たち、夫婦なのに……。

白いハンカチ……

さっき、夫が廊下で握ってたやつ。

私が前に使って、洗濯してたやつを、なぜか夫が握りしめてた。

あの白さが、今、妙に目について……離れない。

……もし、本当に……

貴島さんと……そんなことになったら……

私は、どうなるんだろう。

夫は今も、私の顔をじっと見てる。

「どう？」って、促すような目。

私は……何て答えればいいのか……。

頬が熱い。

自分でわかってる。

赤くなってる。

夫の言葉を聞いた瞬間、胸の奥がざわついて、でも同時に、昔の記憶が少しだけ蘇ってきて……。

……いや。

違う。

私は、ただ……戸惑ってるだけ。

怖い。

夫を裏切るような気がして、でも、夫が自分で言ってるのに、なぜこんなに胸がざわつくのか……。

あのハンカチの白さが、急に怖く感じる。

夫が握ってたときとは、違う色に見える。

今は、ただの布なのに……どこか、冷たい。

……夫。

本当に……それで、いいのか……？

私……どうしたら……。

……声にならない、ただの吐息。

ドアの向こうに、夫がいる。

私は、まだ何も答えていない。